

令和7年（2025年）度行政評価シート

令和7年6月1日

評価者	こどもみらい部長 廣川 正
-----	---------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野 4-(4) 青少年育成	施策の方針	4-(4)-①青少年の育成・支援
目標とするまちの姿	青少年一人ひとりが多様な体験や活動を通じて、夢や希望を持って様々なことに挑戦し、多くの人々との関わりの中で地域を支えられるような大人に成長しています。 地域に青少年が集うことのできる居場所や社会参画の機会・仕組みが整っています。		
主な取組	(1) 青少年の居場所づくり 多様な体験・活動や多くの人々との関わりを通じて、青少年が自立・参画・共生していく基礎を育むことができる居場所づくりを支援します。 (2) 地域の担い手となる青少年の育成 地域で青少年を育成する風土を醸成するとともに、将来の地域づくりの担い手となる青少年の育成を目指し、発達段階に応じた社会参画の機会を創出します。		

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

- ・青少年会館のリニューアルやわかたまの拡充により青少年の居場所づくりをさらに進める。
- ・放課後かまくらっ子が一つの居場所となるよう、引き続き大学生及び中高生の参画を推進していく。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	24,276	29,981	28,932	34,961	44,915	
人件費	44,376	65,785	70,072	68,094	81,229	
総事業費	68,652	95,766	99,004	103,055	126,144	0

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	こども-29	放課後かまくらっ子推進事業		1,601	15,078	16,679	現状維持	A	現状維持
	こども-30	育成事業		19,971	29,168	49,139	拡充	A	拡充
	こども-31	青少年会館管理運営事業		23,343	36,983	60,326	改善・変更	A	改善・変更

4. 評価対象年度(令和7年度)の主な実施内容

- ・中高生による鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会を継続し、若者の声をより生かした青少年の居場所へのリニューアルを行った。
- ・鎌倉青少年会館リニューアルのオープニングイベントを実施し、オープン後は中高生による運営委員会が主体となって運営を行った。
- ・若者の自習スペースわかたまを、深沢行政センター及び玉縄行政センター内に新たに開設し、青少年の居場所の充実を図った。
- ・放課後かまくらっ子にて、大学生も参画した中高学年の自己実現プログラム、中高生も関わったプログラムを引き続き実施した。

※実施できなかった事業とその理由

※ 前年度外部評価における提言・質問に対する回答

提言・質問	回答
<p>取組そのものは良いのだが、市の組織の在り方に業務がくっついていことから、青少年という視点で評価を行うとするのに、放課後かまくらっ子の話を持ち出すと検討すべき論点がズレてしまうので、組織の在り方と業務、またその評価についてはどのようにしたら良いか検討すべきである。</p>	<p>→ 放課後かまくらっ子の事業は、「子育て家庭への支援」と「青少年の育成・支援」の両施策に関わっていることから生じるものであると考えます。ご指摘の点を踏まえ、検討してまいります。</p>
<p>平成28年度に改訂をした「鎌倉子ども・若者育成プラン」に示す3つの重点目標を具現化するよう取り組むべきである。</p>	<p>→ 平成28年の子ども・若者育成プラン改定時に位置付けた「青少年の居場所づくり」「支援体制の充実」「社会参画の推進」という3つの重点目標については、令和6年度に策定した鎌倉市こども計画における主要施策においても「こどもまんなかの居場所づくり」「悩みや不安を抱える若者やその家族に対する支援の充実」「子ども・若者の健全な成長への支援」として位置付けています。引き続き実現に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>特に青少年という幅広い世代を対象にしている場合、必要としている人は多岐に渡るため、さらなる広報活動等の周知をすべきである。</p>	<p>→ 様々な媒体を活用して、必要としている人に伝わる工夫に努めてまいります。</p>
<p>青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組を実施するべきである。</p>	<p>→ 令和6年11月10日に鎌倉青少年会館に中高生の居場所「COCORUかまくら」を新たに設置しました。ご指摘の通り、引き続き青少年が来たいと思える青少年会館の運営に努めてまいります。</p>
<p>青少年会館が減少している今、それに代わる居場所の提供や「居場所」の多様化のためにも、民間の施設(コワーキングスペースなども含む)、既存公共施設、公園、公開空地の活用等の可能性も踏まえて居場所として利用するなど、対象年齢を限らずにさらなる模索をすべきである。また、施設利用が近隣に限られるのであれば、各所で一定の質のサービスが提供されるべきであり、そのための基準作りが必要である。</p>	<p>→ 青少年にとって家でもない学校でもないもう一つの居場所の選択肢が増えるよう、様々な可能性を模索してまいります。各所で一定の質が保てるような基準作りについても研究してまいります。</p>
<p>今回の青少年会館の居場所づくりを先例に、市内の各地域で、当事者主体の居場所づくりができるよう、公民館や施設の活用、開拓を進めるべきである。</p>	<p>→ 青少年当事者の声が居場所づくりの施策に反映できるよう、また、さまざまな施設の活用について模索してまいります。</p>
<p>各地域で治安の差はあるが、それらを踏まえて健全な集まりの場が増え、居心地のよい青少年の育成がされるべきである。</p>	<p>→ 安心安全に利用できる居場所づくりや、若者の健全育成に努めてまいります。</p>
<p>居場所について、高校生以上は、近隣の市町村との調整や連携をすべきである。</p>	<p>→ 高校生は市域を越えて学校に通っていることが多く、ご指摘の視点を踏まえた居場所のあり方について検討してまいります。</p>
<p>配置されてるコーディネーターを中心に、放課後かまくらっ子登録家庭、かまくらっ子を卒業していった青少年に促われず、地域の人的資源を活用していくよう地域との情報共有やコミュニケーションをとっていくべきである。</p>	<p>→ 放課後かまくらっ子は、これまで地元の企業や商店街、中学校や高校、大学など、さまざまな地域の方々のご協力のもと活動してまいりました。引き続き、広く地域の方々に参画していただける活動に努めてまいります。</p>
<p>放課後かまくらっ子が、どのようにして地域づくりの拠点となるのか、具体的な成果等の説明を行い、より地域との関係性を深め、より関わる人を増やしていくべきである。</p>	<p>→ 地域の方々が参画した放課後かまくらっ子の活動が地域づくりにつながることを理念として掲げております。週1回実施している体験活動の講師を地域の方に協力いただくなど、積極的に地域との関わりを図っています。引き続き、広く地域の方々に参画していただける活動に努めてまいります。</p>
<p>放課後かまくらっ子が小学校区に一つあるという利点を生かして、子どもや地域の住民に対し、地域資源の存在を周知していくための情報提供をすべきである。また子どもを中心とした地域の居場所が少ないため、登録者だけではなく広く子どもを中心とした地域の活動等にも利用してもらえる工夫をすべきである。</p>	<p>→ 様々な手法による周知・情報提供に努めてまいります。地域の活動としての利用については課題として研究してまいります。</p>
<p>いずれの取組も、幼いころからの流れで参加する当事者が多い内容に思える。ある程度成長した後、突発的に問題に直面した若者が、これら支援に容易にアクセスできるような環境づくりをすべきである。</p>	<p>→ 信頼できる大人とのつながりや安心できる居場所の経験は、将来的に若者が困難や壁に直面した時に、誰かに頼ったり相談する勇氣、乗り越える力につながるものと考えます。様々な取組みへの参加、不参加に限らず、若者が問題に直面した時に適切な支援にアクセスできるような環境整備に努めてまいります。</p>

5. 成果指標

成果指標①		放課後かまくらっ子に参加した中高生の数					出典	所管課調べ		
初期値	令和元年8月31日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	30	目標値	50	50	70	70	100	100	人	
		実績値	未実施	9	88	193	393			
		達成率	—	18.0%	125.7%	275.7%	393.0%		%	

成果指標②		放課後かまくらっ子の推進支援に参画した大学生の数					出典	所管課調べ		
初期値	平成31年4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	100	目標値	160	200	200	230	230	250	人	
		実績値	160	700	800	1,493	1,412			
		達成率	100.0%	350.0%	400.0%	649.1%	613.9%		%	

成果指標③		居場所に関するアンケート調査において「居心地の良い場所があるか」との問いに対し「いいえ」と回答した割合					出典	所管課調べ (二十歳のつどいアンケート)		
初期値	令和2年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	5	目標値	5.0	5.0	4.0	4.0	3.0	3.0	%	令和4年度は中高生を対象としたアンケートを実施
		実績値	5.0	2.0	未実施	2.0	2.0			
		達成率	100.0%	250.0%		200.0%	150.0%		%	

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

<p>成果指標①</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後かまくらっ子利用児童が、小学校卒業後も放課後かまくらっ子サポーターとして関わっているほか、地域の中学校や高校との出あい・つながりが継続している。 <p>成果指標②</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生による放課後かまくらっ子への参画は、認定NPO法人鎌倉てらこやとの協定等によって、目標値に到達しており、本施策によって青少年の社会参画の機会・仕組み作りに一定の効果が得られている。 <p>成果指標③</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標値は達成しているが、安心できる居場所がない若者がいることが確認できており、青少年の居場所づくりを進めていく必要性がある。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に中高生による実行委員会の意見をききながら方針を決定した、鎌倉青少年会館のリニューアルを実施し、中高生の居場所の創出を図ったことにより、目標とするまちの姿の「地域に青少年が集うことのできる居場所」の整備に貢献した。 わかたまの拡充に、歓迎の意見も寄せられ、若者が利用できる場所が増えることを望む声があることが、再度認識されたことにより、更なる充実を図る必要がある。 放課後かまくらっ子に大学生、中高生が参画する機会を創出することで、地域で青少年を育成する風土を醸成し、目標とするまちの姿の「地域を支えられるような大人への成長」に貢献した。 <p>これらの施策が総合的に作用し、青少年の居場所や社会参画の機会・仕組みの充実につながったものと考えられる。</p>
--

8. 今後の方向性

- ・青少年の居場所づくりとして、青少年の育成・支援における一つの課題でもある居場所の形成に向け、当事者から求められる居場所を一つでも多く提供できるよう、協議・検討を行っていく。
- ・鎌倉青少年会館リニューアルにあわせ、施設設備だけでなく、利用者である中高生に関わるスタッフ、学生サポーターの存在が欠かせないことから、体制の拡充や育成を図っていく。
- ・地域の担い手となる青少年の育成として、放課後かまくらっ子が、将来の地域づくりの担い手となる青少年育成の土壌となるよう、大学生や中高生の参画を推進していく。また、青少年に係る施策に青少年の声が反映されるよう委員やプロジェクトチームに若者を取り込んでいく。

9. 今年度(評価年度)の目標

- ・鎌倉青少年会館を、中高生により構成された運営委員会の意見を聴きながら引き続き運営し、中高生が自分たちの居場所と認識しより関わりを持ちたくなるような居場所とする。
- ・放課後かまくらっ子が一つの居場所となるよう、引き続き大学生及び中高生の参画を推進していく。